



北アフリカ地域ニュース

エジプト： ムバラク大統領とサルコジ仏大統領の会談：原発着工への協力 (12月31日付現地各紙)

1. 12月30日、ムバラク大統領とサルコジ大統領は、カイロで首脳会談を行い、国民和解達成に向けたレバノンの安定維持、アナポリス会合及びパレスチナ暫定自治政府に対する政治的、経済的支援、イラク、ソマリア及びスーダン情勢等の共通の関心を有する国際的な問題ならびに二国間協力について話し合いが行われた。またサルコジ大統領は、原子力の平和利用でエジプトに協力する用意があると表明した。

2. ムバラク大統領の発言

様々な分野において二国間の際立った関係を発展させる方途についてサルコジ大統領と話し合いを行うことができ満足している。会談では、貿易、投資、産業、文化、再利用可能なエネルギー、観光等の分野における協力を促進させる必要性を反映しており、二国間協力の新たな展望を開くものである。

会談では、レバノン、パレスチナ、イラク、スーダン、ソマリアを含む現在の国際情勢について話し合われた。

会談では欧州・地中海連合の創設を提唱するフランスのイニシアティブに鑑み、欧州・地中海協力についても話し合われた。エジプトは、欧州との協力を前進させるための同イニシアティブを歓迎する。

3. サルコジ仏大統領の発言

エジプトは、フランスにとって鍵となるパートナーである。ムバラク大統領の見識及び温和なものを見方を評価している。ムバラク大統領は、争いではなく平和を必要とする地域において、常に対話を優先させている。

原子力発電でも国内の電力需要の大半をまかなうフランスは、この分野で協力できる。

エジプトとフランスは、イラク、イラン及びダルフール情勢、アナポリス会合、パレスチナ国家の建設について似通った見解を有している。(イスラエルによる入植活動に対するフランスの立場については)フランスはあらゆる関係者・国にとって友人である。パレスチナ問題に対するフランスの立場は一様であり、イスラエルと共生する独立したパレスチナ国家を樹立することを求める。